



## 6万人集会から1000万人署名成功へ！ 全国集会参加報告

松田 智香 (全道庁上川総支部：女性枠)

9月19日(祝)東京都新宿区明治公園で開催された「さようなら原発1000万人アクション」全国集会に参加しました。大江健三郎さんらのアピールなどあり会場一体となって原発推進の流れを変える、原発を止める、という決意をなおいっそう固めました。

子どもは「げんぱつこわい」とか「原発はんたい」と書いたもの、お年寄りが「爺もいやです」といった手製のボードを持って参加しているのを、切なく悔しく思いました。

いち早く原発再稼働を許した知事の判断は、本当に思慮がなく、道民のいのちや暮らしを軽視したものだと感じます。私はこれからも「アクション」を続けていこうと思います。

蠣崎 純一 (占冠村職：地本枠)

9月19日(月)、明治公園に集まった6万もの人々。その中の一員として、今回参加させていただきました。3月11日に起こった目を覆いたくなるあの地震の余波を受け、福島第一原発はいまだに大量の放射能をまき散らしているこの現状。そのような中、福島県からも多くの方が参加していました。いまだ事故収束の見通しが立たないにもかかわらず、政府・資本家はなおも原発の推進にしがみついていることに対する多くの怒りが、この集会に参加している人からも聞かれました。また、この集会で目立ったのが子どもを連れた参加者。将来を担う子どもたちに負の遺産を残さしてはならないとの思いが痛いほど伝わりました。原発は自分たちの力でなくすことができる。その反原発闘争が今重要だと多くの方たちと共有することができました。



大内 則幸 (剣淵町職労：青年枠)

私が印象に残ったのは福島からきた被災者武藤さんの「未来の子供達へこのような現実を起こしてしまった世代として本当にごめんなさい」「国は国民を守らない。フクシマは実験場になった、私たちは見捨てられた」という言葉の後に「私たちが馬鹿にするな。見捨てるな」という怒りの言葉でした。私は震災前まで原発は「必要悪」であるがなくてはならない物」という認識でした。しかし、世界で最も原発の安全を訴えていた日本で原発事故が起き、多くの人々が自分の家に帰れない、放射能で汚染され農業もできないことは衝撃的でした。今回の集会で「原発はいらない」「原発がなくても電力は足りる」という思いを多くの仲間達と共有できたことは自分にとってプラスの出来事でした。これからも「脱原発」を訴えていき多くの集会に参加したいと思います。

川崎 弘美 (富良野市労連：女性枠)

明治公園に続々と入ってくる人の流れ～、30℃を超える暑さの中、子供からお年寄りたちが約6万人、とこ狭しと集まったの集会でした。

大江健三郎さんや山本太郎さんをはじめとする呼びかけ人からのメッセージ⇒人類の実験で原発を落とされた国に、54基の原発がある、この犯罪に加担してはいけない、事実は隠される、コンセンツの向こうにあるエネルギーはささやかでも大切に使うべき、福島の事故は世界を変えた、原発はどんな国でもどんなシステムにおいても制御できないもの、福島を忘れないでほしいなど、原発の恐ろしさを世界へ発信する熱意を感じてきました。